

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2011/12/30	2012/3/30	2012/4/13	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	8,455.35	10,083.56	9,637.99	11,408.17	2010/4/5	8,135.79	2011/11/25
NYダウ	ドル	12,217.56	13,212.04	12,849.59	13,297.11	2012/4/2	7,791.95	2009/4/21
円/ドル	円	76.91	82.87	80.93	99.76	2009/4/17	75.35	2011/10/31

過去3年高値・安値はザラ場ベース
当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

市場予想を下回る米国雇用統計の発表や欧州債務問題への懸念が再燃したことなどを受けて続落。但し、週末にかけて持ち直す。

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲50.46円(▲0.52%)、TOPIXが▲10.23ポイント(▲1.24%)と市場予想を下回る米国雇用統計の発表や欧州債務問題への懸念が再燃したことなどを受けて続落しました。業種別(東証33業種)にみると、サービス業、銀行業、小売業など5業種が上昇する一方、海運業、鉄鋼、その他製品など28業種が下落しました。週明け9日の日本株市場は、先々週末、米国雇用統計が市場予想を下回る結果になったことをきっかけに円高ドル安が進行したことから大きく下げて始まった後、終日軟調に推移しました。その晩、6日が祝日のため休場となっていた米国株市場が雇用統計の結果を反映して大きく下落する中、翌10日も朝方こそ日銀に対する追加金融緩和策への期待感から上昇して始まったものの、日銀が金融政策決定会合で金融政策を現状維持とする決定を行ったことから期待感が剥落し、引けにかけて再び下落する展開となりました。また、その晩、9日が祝日のため休場となっていた欧州金融市場においてもスペインやイタリアの国債利回りが大きく上昇したことを受けて欧州債務問題への懸念が高まったため、翌11日の日本株市場は大きく下げる展開となり、日経平均は約2ヵ月ぶりに9,400円を割込む展開となりました。その後週末にかけては、①ECB(欧州中央銀行)のクーレ理事がECBによる国債購入再開の可能性に言及したことを受けて欧州債務問題への懸念がやや和らいだこと、②FRB(米連邦準備理事会)に対する追加金融緩和策への期待が高まったことなどから日米欧の株式市場は持ち直す展開となり、日経平均は9,600円台まで回復しました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回	
4月16日	Mon	米国	ニューヨーク連銀製造業景気指数	4月	20.21
			小売売上高(除自動車)(前月比)	3月	0.9%
4月17日	Tue	日本	鉱工業生産(前月比)	2月	-1.2%
		米国	住宅着工件数(年換算)	3月	698千件
			鉱工業生産(前月比)	3月	0.0%
		欧州	ドラギECB(欧州中央銀行)総裁の演説		
4月19日	Thu	日本	貿易収支	3月	+294億円
		米国	景気先行指標総合指数	3月	0.7%
		欧州	スペイン国債入札		
4月20日	Fri	日本	第三次産業活動指数(前月比)	2月	-1.7%
		米国	ミシガン大学消費者信頼感指数	3月	75.3
			貿易収支	1月	-488億ドル
		国際	G20(20カ国・地域)財務相・中央銀行総裁会議(ワシントン)		
			IMF・世銀春季総会(ワシントンで22日まで)		

決算発表予定 他	国	内容
	日本	決算発表 : 4/20 東京製鐵、安川電機、JFEホールディングス
	米国	決算発表 : 4/16 シティグループ 4/17 インテル、ゴールドマン・サックス・グループ、コココーラ、IBM、ヤフー 4/19 マイクロソフト、バンク・オブ・アメリカ 4/20 マクドナルド

当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

米国の経済指標や1-3月期の企業業績の発表、欧州債務問題の状況に一喜一憂する展開を想定するが、来週には米国でFOMC(米連邦公開市場委員会)、日本では日銀の金融政策決定会合を控えていることから、日経平均は9,000円台半ばから大きく乖離しないと予想している。

今週の日本株市場は、先週末に発表された中国の経済指標が予想を下回ったことや、スペインの債務問題への懸念が再び高まったことなどを嫌気し下落して始まった後、米国の経済指標や1-3月期の企業業績の発表、欧州債務問題の状況に一喜一憂する展開を想定しています。ただ、来週には米国でFOMC、日本では日銀の金融政策決定会合を控えていることから、日経平均は9,000円台半ばから大きく乖離しないと予想しています。経済指標では、米国で16日に発表されるニューヨーク連銀製造業景気指数、小売売上高、17日の住宅着工件数、鉱工業生産、20日のミシガン大学消費者信頼感指数、貿易収支、日本では2ヵ月ぶりの赤字が予想されている19日の貿易収支に、また演説、その他の予定では、17日のドラギECB総裁の演説や、19日のスペイン国債の入札に注目しています。また、米国の1-3月期の決算発表では、シティグループやゴールドマン・サックス・グループを中心とした大手金融機関や、17日に発表されるインテル、IBM、19日のマイクロソフト、20日のマクドナルドに注目しています。